

## 平成 24 年度 卒業式 式辞

本日、来賓各位のご臨席のもと、平成 24 年度の卒業式を挙げていただけますことは、姫路獨協大学にとってまことに有難く、喜ばしいことでもあります。私ども教職員一同、卒業生の皆さんに心からお祝いを申し上げたいと思います。

本学は、25 年前にここ姫路に、外国語学部、法学部、経済情報学部の文系 3 学部を、相次いで開設したのが始まりであります。そして、今から 7 年前には医療保健学部、6 年前には薬学部を新たに設置し、播州地区唯一の文理 5 学部からなる総合大学となりました。そして本日、最後に設置された薬学部の第 1 期生が卒業することとなりました。本学は今後もこの 5 学部の特徴を生かし、各方面に多様な人材を送り出すとともに、より一層の幅広い地域貢献を果たすべく、努力を続けてまいります。各位のご支援をよろしくお願い申し上げます。

さて、卒業生の皆さんは今日（きょう）卒業証書を手にとりますが、4 年前あるいは 6 年前に入学された方すべてが、この日を迎えられるわけではありません。ここ卒業まで無事に来られたのは、ご自身の不断の努力に加えて、保護者の方々の温かい支えなど、条件が揃って、今日に至ったということをおぼろげに忘れてはならないと思います。諸般の事情により、残念ながら、この場に来られなかった諸君の事を考えるとき、入学すれば当然卒業できるものと思っていたことが、そうではなかった、確約されたものではなかったということに、気が付くと思います。

未来は常に不確かであります。ヒトは、現実世界に住みながら、夢や理想あるいは自分の将来像といった、不確かな未来にむかって生きる、特殊な生き物であります。そして、我々がいる現在と求める未来との間には断絶があり、深い溝が横たわっています。溝の向こうの不確かな未来を現実のものにしようとするなら、その未来を信じて自己研鑽に勤め、一步一步努力するしかありません。

いまひとつ重要なことは、今という瞬間、現在のみが自分の手の中にあり、どのようにも使うことができるということでもあります。現在という唯一この確かな時間を、どのように使うかで、未来は大きく変わってくるのであります。自己を見つめ未来を信じ、夢を見続けなければ、あるいは叶うと信じて努力を継続しなければ、夢は叶うものではありません。若い皆さんにはあふれる活力

があり、特に大きな可能性がある」と申し上げたいと思います。過去は確定済みですから変えられませんが、経験を価値あるものとして、未来に生かすことができるのもまた、ヒトの知恵であります。失敗もまた大きな糧になりうることを胸に、勇気をもって未来に挑戦して頂きたいと思います。

獨協学園の中興の祖であり、文部大臣で哲学者でもあった天野貞祐先生は、「大学は学問を通じての人間形成の場である」と申されました。人間形成は様々な仕方で可能ではあるが、大学は真理を探究する学問の場であり、勉学に不断の努力をすることが最もよい人間形成になる、ということと言われたのであります。今日（きょう）卒業される皆さんにおいては、本学で学び不断の努力というよい習慣を身に付けられて、一つの結果を出されました。今後はこの成功体験に満足することなく、さらなる研鑽を続けて人間形成に努めて頂きたいと思います。

特に、薬学部の卒業生の皆さんに申し上げます。私は、皆さんには、本学薬学部の第1回の卒業生であるということ、深く心に刻んでいただきたいと思っております。6年前、実績もない新しい薬学部であるにもかかわらず、そのことをよく理解されて、未知数の薬学部に入学されました。そして、先生方といわば苦楽を共にされてきたことを、私どもは決して忘れるものではありません。どうか、自分たちは薬学部の第1回の卒業生であり、そのふるまいが今後の大学全体の信用にも大きく影響するということ、心に刻んで頂きたいと思っております。

最後に、本日の卒業生の中には、留学生の皆さんもおられます。留学生の皆さんには、母国とは違った文化の中で、大変ご苦労されることもあったと思っております。私どもは、この姫路で学ばれた皆さんが、ぜひとも日本の真の理解者として母国との架け橋となり、あるいはまた世界の舞台上で活躍されることを、大いに期待しております。

以上、本学を代表いたしまして、卒業生の皆さんの前途をお祝いし、ご健康とご多幸を祈念して、式辞といたします。

平成25年3月26日  
姫路獨協大学・学長 本多義昭